# 香取遺産

vol.202

## 文化財保存館リニューアル

いぶき館　2階

▲大崎城出土資料

▲展示室

文化財保存館の展示が新しくなり、旧石器時代から中世までの通史的な展示になりました。

旧石器時代(西和田古墳群出土)は土器を使う以前の時代で、食料を求め移動しながら生活をしていたと考えられます。ナイフ形石器や尖頭器を展示しています。

縄文時代(良文貝塚他)は土器を作り、弓矢のほか多種多様な道具を使い定住生活を始めた時代です。当時の土器や貝を実際に触れるコーナーもあります。

弥生時代(織幡ササノ倉遺跡)は水田稲作が始まり、家族を越えて多くの人々が協力して谷津田などで稲作を始めたものと考えられます。

古墳時代(城山1号墳他)は、三角縁神獣鏡や武器・武具・装身具・埴輪など多くの資料が出土しました。その豪華絢爛さから下海上国造の古墳と考えられます。また、香取の海周辺で多く出土する石枕も展示しています。

奈良・平安時代(古屋敷遺跡他)は、天皇を中心とした律令制度のもと中央集権国家が作られた時代です。「山幡」と書かれた墨書土器により、正倉院に残された戸籍の郷名と思われ、この地の様子の一端がうかがい知ることができます。

中世(大崎城)は千葉氏一族の国分氏が築城し、低地からは、木製品(下駄、将棋の駒、卒塔婆など)をはじめとしてさまざまな資料が出土しました。また、鎌倉時代を中心に石製の供養塔である下総型板碑が香取市を中心に造立されました。正元元(1259)年銘の板碑(県指定文化財)が、いぶき館1階のガラスコリドーに展示してあります。

問 生涯学習課 ☎(50)1224